

研究テーマ名	小型電動モビリティの受容性，安全性向上に向けた環境整備に関する国際比較研究
背景と目的	<p>安全快適な交通の実現のため，電動キックボード，座り乗りの超小型モビリティなど，様々な小型電動モビリティの普及展開が期待されている。2208Cプロジェクト（先行研究）では，利用者の意識・挙動，法制度，自治体の立場から主に電動キックボードを対象として歩道・車道上で生じ得る課題整理を進めてきた。</p> <p>本研究では，先行研究の検討をさらに深め，1-2人乗りの小型電動モビリティを対象として社会的受容性，安全性向上に向けた環境整備に関する研究を行う。そのために，国際比較アンケート，海外実務者へのヒアリングを通じて，わが国の道路構造上の課題を明らかにする，また，歩行者，自転車，自動車との共存，分離の条件について挙動分析に基づいた検討を進め，安全な歩道，車道空間の提案を行う。</p>
期待される成果	<p>歩道・車道利用を想定した1-2人乗りの小型電動モビリティを対象とした社会的受容性，安全な環境整備に関するアンケートやヒアリング調査により，諸外国の実績を踏まえた検討を行う。具体的には利用者，社会の受容性を評価する統計モデルを構築することで，わが国の歩道，車道上で起こり得る課題に対して効果的な解決策を提示することができる。この点において先見性があるといえる。また，歩行者，自転車，自動車との共存，分離の方向性について，VR調査に基づき，モビリティ1台に対する複数利用者とのすれ違い，背面からの追い越しを再現評価するなど，現実の混在状況下で起こり得る課題を明らかにし，海外での観測調査に基づいた現実に生じている交通問題や安全対策を考慮することで，さまざまな利用者に受容される安全な歩道，車道空間の具体的条件，特に望ましい自転車通行空間の整備形態を提案する。この点で実際性のある研究といえる。</p>